

PRO-LIFE NEWS

(中絶に反対する運動)

〒780 高知市新本町一丁目七番三十一号

第2カ月目

「この時期あなたは、幸せなほど気楽に優雅に自分の世界の中を動くことができました。その月の終わりには泳ぐこともできるようになりました。まだ生まれていないこの時点の子供が、2秒以下で空中回転をやったという記録まであるのです！」

37日目には、「胸にもたれている」頭部に鼻の先が現れ、それがくすぐられると引っ込めることができました。内側に耳が形成されると、自分を囲む水の世界の押し寄せる音を聞き始めました。この月の末には、母親は2回生理がなかったことになり、たぶんあなたを身ごもったことを確信したでしょう。診察した医師はおそらく、あなたがこの段階では既に「素晴らしく機能している赤ん坊」であることを指摘し

たことでしょう。」

胎児の頭は、全体の約1/2の大きさです。脳細胞は急速に成長、分裂をして、間違いなく人間のものであるミニチュアの脳となります。約40日目には、脳波を検波し、記録し、判定することが出来ます。これらの組織が形成されるとすぐに、脈が、循環、消化、排泄などの機能を管理、統制し始めます。

この1カ月の間に、耳・鼻・唇・舌と共に顔たちがはつきりとしてきます。目も形成され、初めて色素が作られる第35日目頃には、その色が濃くなってきました。44日目までにはまぶたが眼球のほとんどをおおひ、すぐに、発達途中の光の中に敏感な細胞を隠して保護するようになります。こうして目は、7カ月後まで再び開くことのないままになります。

この月の終わりが近付くと、完成された骸骨が、

軟骨から本当の骨に変化します。あごもできてきて、歯ぐきに乳歯がのぞいて完成です。筋肉の細胞は特定の位置に動いてきて、すぐにこの40組の筋肉が初めて運動を開始します。又、それらの筋肉が初めて神経と連動すると、体が感触に対して反応するようになり、かすかな動きが記録されます。しかし4、5カ月目まではまだ、ほとんどの母親はその動きを感じません。

ミニチュアの子供は成長して1インチ以上の身長になっていきます。今や全てが形成されて、大人になるまでにある体の変化といえ、おもに各部の寸法と完成度が変わるぐらいです。この男児、または女児は、既に間違いなく、小さな赤ん坊とか非常に小さな人間と見えるほどに成長しつつあります。この段階にある誕生前の子供は、ラテン語で、「若者」又

は「子孫」にあたる胎児(3カ月以上)と呼ばれています。

8週目

親指を吸っている胎児



10週目

人間として完成している



生命は守られているか

『生命は守られているか』、と言つ本が、高知新聞社から発行されている。障害や難病と闘う人。老い、そして、保育器の中の小さいのち。そのいのちを支え、守る家族や医療従事者たちの姿がドキュメンタリータッチで描かれていて、感動を呼ぶ。

新年早々、六つ子ちゃん誕生のニュース。ひとりは死産だったとのこと。500グラムから700グラムの超未熟児。医師団の見守る中、保育器の中で育てられている。

「生命は守られているか」生命を守るうとして、いる人たちによって守られているいのちは多い。善意によって多くのいのちが守られているのも確かである。だが、本当にいのちは守られているか、と問

われれば、キャンペーンを張らなければならぬ現実の、裏の見えない部分があることに気付く。

今では、500グラムから500グラムの超未熟児が生存可能な時代である。だが、その反面、闇から闇へと葬り去られてゆくいのちがあることも確かである。現代の最高の医療技術を用いて、超未熟児のいのちを守ろうとする人たちがいる。要らないから、と言う、ただそれだけの理由で、せつかくこの世に生を受けたいのちを抹消する人もいる。

「年間、五十万とも六十万とも言われる小さないのちの抹消を想うとき、自分たちのしていることが空しく感じられる」と、語った超未熟児のいのちを守るうと、必死になつて、日夜研究にいそしんでいる人の言葉が、ここに重くのしかかってくる。この矛盾した現実をありの

ままに見たい。そして、この現実をふまえた上で、幸せへの道を探りたい。

いのちを生かすのと、殺すのと、どちらが良いか、どちらがしあわせな道か。いのちを守るのと、危険にさらすのと、どちらが良いか、どちらがしあわせか。答えは簡単、誰もが、生かす、守るのがよい、と言うに決まっている。しかし、

事が自分の身に及ぶと、自己本意な態度を取りかかないのが人間だ。

エヴィー・ヴィーセルはカインとアベルの話を引き合いに出しながら、カインが弟アベルを殺すことによつて、すべての人間を殺した、そして、自らをも殺した、と語っている。沈黙の叫びの世界でも、同じことが言えないだろうか。「胎内に芽生えたいのちを抹殺し、また抹殺するように勧める人は自らのいのちを知らず知らずのうちに抹殺している」と。

自らのいのちを否定して、人は幸せであろうはずがない。自らの幸せを望むのであれば、他者のいのちをも尊重する、と言つことなのである。そのとき、「生命は守られている」と言えるのではなからうか。

まつながようじ

高知江の口教会

感想

「ごらんください。私たちは今にも消されようとしている死に直面した胎児の声なき叫びを見る事ができます」

(B・N・ネイザンソン)

学校でも、中絶について習いましたが、このビデオのようなものを見るのは初めてで、すごくびっくりしました。とり出されたたくさんの胎児を見て、なんかもすこいことが世界中で行われているんだなあ、と怖くなりました。「中絶」ということを軽く考えている人がひとりでも多く、減り、知識をもてるようになればいいと思います。

川上知子(看護学生)

私は妊娠したことがないので中絶の事などあまり深く考えたりしたことになかったからこのビデオを見て心にうたれました。

私の友達にも中絶した子がいるけれどその子は「あーああの子かわいそう」と友達の事を心配しているけれど一つの命をなくした胎児の方が残酷です。中絶って怖いなー

南部佳恵（保母・21才）

とても大きなシヨックを与えられました。本人の意志には全く関係なく、まるで物か何かのように殺される。とても許されるべき事ではありません。しかし、今もどこかで、中絶がおこなわれている。それを考えると、人間は、何ておろかな者であるうと感じ

ます。

子供を産みたくても産めない人もいるのに、せっかく、この世に生を受け、生きようとしているのだから、本当に、生かせてあげたいです。

瀬口直美

訓練実習生（22才）

私は、ふだんに中絶という言葉をよく聞くけれども、どういふふうに殺すかなどと考えたことはありませんでした。でも本の切りぬきを見せてもらった時は、びっくりしました。こんなむごい殺しかたをするのかと思うと背筋にさむけが走りました。一番ひどいと思ったのは、食塩中毒にする殺し方です。この殺し方は、長い注射針を母親の腹部から胎のうに挿込み、濃縮食塩水を注射するのです。そうすれば、胎児の皮膚が焼けただけ腐食してしまつのです。後は手足などばらばらにして殺したり・・・殺された赤ちゃんは、ゴミのようにすてられるのです。私の友達も、もし今子供ができてしまつたら中絶をするという子はたくさんいます。それはみんな、どういふふうにして殺すかを知らないから平気で中絶をするということが、いえるのだ

と思いました。せっかく生まれてこようとすると赤ちゃんを殺す権利はないと思います。それに、これは完全な殺人犯としてのさばかれないのでしょうか。

榎本妙子（高2）

「私は、人間が苦業と屈辱に耐えている際には、いかなる時、場所にあつても決して黙ることはない」と誓った。我々はいつでも味方につく必要がある。中立は、被害者ではなく圧迫する者の役に立つし、沈黙は苦痛を与えられた方ではなく与えた方に自身をつけさせることになるからだ。人間の生命が危険な状態にあつたり、人間の威厳が危険にさらされるような時には、口出しをしなればならないこともある。人種や宗教や政治的意見の相違が原因で人間が迫害される所には、国境や感情は存在しなくなる。その場所が、その瞬間に、「宇宙の中心となるからである。」

エリー・ワイゼル

ユダヤ人大虐殺時の

生存者

「胎児は人間ではない」

論理的にきこえるだろう。あなたがそれについて

考えるまではそうなのである。「人間」は定義によると、「男性か女性か子供である人間。他の動物から区別される人間」を意味する。胎児は子宮のなかにいるうちから、現在ではながめたり監視することができ、輸血を受けたり、手術をしたり、医学的に扱われているのだから。胎児が人間家族の一員ではないと信じるのは、非論理的である。

私達の個人的な生物学上の体系は、受胎によって始まり、死によって終わる。それは私達に生命というのは連続体であるという明らか事実を与えてくれる。この連続体のすべ

ての段階において、遺伝学が実証するように、私達は人間なのである。だから、私達の人間性は、私達の大きさや成長の段階や住んでいる場所によることはない。

人間を「embryos（受胎後三ヶ月以内の胎児）」とか「fetus（妊娠三ヶ月後の胎児）」と呼ぶことは、「若者」とか「大人」と呼ぶことと同じ目的にかなう。これらの理学的用語は人間が成長のどの段階にいるのかを示すために使われる。胎児は人間ではないなどということを意味することは決してない。「幼児」は成長や依存性の見地からみて「若者」と違うように。「胎児」も「幼児」とは違う。しかし、すべて遺伝学上、人間なのである。

中絶のスローガンについて考える前は、それらは愛情がこもっていたり論理的であったり、常識のあ

る言葉だったり道理に合った言葉に・・・きこえる・・・かもしれない。実際の所、それらは全くそのとりではない。なぜならそれらは、中絶が男の子か女の子かの胎児を滅ぼしてしまふという真実を否定しているからだ。

私達は女性に、彼女の子供の死よりも妊娠の問題を申し出ることができらうか。もちろんできるとも！実際の問題は、私達はそうしたいか？ということである。

勇気

今、プロ・ライフ・ムー

ブメントが最も必要としているものは、結果のいかんにかかわらず、立ち上がり真実を語る気持ちの強い、勇敢な女性や男性であり、生まれていない子供達を暴力的な痛ましい死から救うために自分の人生において個人的な苦

には勇気がいる。真実のために立ち上り、人間の生命の神聖を助長するには勇気がいる。法律に対し挑戦し、政治的な立場を取るには勇気がいる。医療に従事している者がこの子宮における大量の殺人に対し立ち上るには勇気がいる。女性が自分の中絶を止めて、生まれていない子供にいのちを与えるには勇気がいる。勇気が必要である。

勇気が必要である。生まれてこない私達の弟達や妹達のために発言し、プロ・ライフ活動に対し忠実を守り、献身的であるには勇気がいる。

神のための予言者のような証人となり、神の小さい子供らを殺すことに従事している病院や診療所に挑戦するには勇気がいる。

直接行動の計画などでこの運動の最前線にいる

しかし、勇気とは何であろう。勇気というのは人自信をもつて危険に立ち向かうことを可能にさせる精神状態であり、勇敢であるということである。多くの人は私に自分達がプロ・ライフ・ムーブメントに参加する勇気がないと言つが、勇気というのは私達皆が持つようにと期待されている神からの贈り物なのである。

今日、世界での最もひどい悪の一つである中絶は、2200万以上の生まれてきていない赤ん坊を殺した。18秒ごとに子供が医者の手によって合法的に殺されていく。神は私達に強くあり、勇気を持つように呼びかけていると私は信じている。考えてみると、この状態はあまりにも抵抗できず、望みがないように思われるかもしれない。そして私達が生まれてくる前の子供達の生命のために戦っている時に神は私達の側についているという事実を忘れてしまいそうになる。

あきらめや落ち込みや抵抗できないという気持ちには神が私達に与えた気持ちではないと信じている。神は私達に強くあり、勇気を持つようにと呼びかけていると信じている。私達は決してあきらめたり、絶望してはならない。今日あなたにされている

質問は、「あなたは神のために立ち上り、人間の生命のためのこの戦いにおいて勇敢に耐えますか。」というものである。勇気という贈り物を持たずにプロ・ライフ活動をすることは今日殺される予定になっている赤ん坊のために良い結果をもたらさない。いつの日か近い日のうちにこの子宮における大量の殺人に終りが来るようにあなたが信仰と勇気をもって行動を始めることを必要としている。

日本プロ・ライフ・

ムーブメント

(中絶に反対する運動)

代表者

ノボトニー・ジェリー

OMI